

昨年度（令和7年度）を振り返って

理事長 長谷川 憲 治

昨年度を振り返ると、嬉しい事も多かった半面、課題も有った一年であったと思います。

先に嬉しい事から申し上げます、いのちの電話に対する認知度や理解が深まり、表彰やご寄付を頂く機会が増えた事です。先ず表彰ですが、10月には山形県及び山形県精神保健福祉協会から山形県精神保健福祉功労者表彰の「作田賞」を頂きましたし、11月には厚生労働大臣から「保健文化賞」も頂きました。特に「保健文化賞」は報奨金も含めて大変名誉ある賞であり、表彰式・祝賀会の翌日には天皇・皇后両陛下に拝謁の栄によくする事も出来ました。これは、山形いのちの電話31年の歴史の中で初めての事で、創設以来の相談員の方々のご努力が認められた嬉しい出来事でありました。

ご寄付も新たに東北商工会議所女性会さん等から頂く事が出来、嬉しく思っております。又、いのちの電話に関して卓話や講演を依頼される機会も多く、より一層ご理解が増えればと願っております。

更に、嬉しい発表がありました。これ迄山形県の自殺率は全国のワースト10の常連だったのですが、令和6年度は何とベスト11位まで改善しました。官民一体となつての取り組みの成果だと思っておりますが、山形いのちの電話としても少しは貢献出来たのかと考えております。

課題であります相談員数も、年度末の91名に加え現在研修中の27期生が8名、更に4月からの28期研修生が10名で、念願の三桁も見えてきている状況にあります。

反面、課題も有ります。第一の課題は、賛助会員が企業・団体・個人共に減少し、会費収入も減少している事です。年末賛助金も減少し、寄付金収入は前年比約185万円の減少となり、今後の大きな課題となりました。

今年度は、久し振りにチャリティーコンサートも開催しますし、是非一昨年度並みの収入を確保したいと決意を新たにしております。又、7年間に亘り山形いのちの電話後援会会長をお勤め頂いた井上弓子さんと、同じく7年間常務理事・事務局長をお勤め頂いた永澤孝さんが5月の理事会をもって退任され、新たに後援会長に本間弘さん、常務理事・事務局長に伊藤利彦さんが就任される予定です。井上会長・長澤局長の永年のご貢献に対し感謝申し上げますと共に、本間新会長・伊藤新局長のご活躍をご祈念申し上げます。

いのちの電話の目的

いのちの電話は、孤独の中にあつて、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。